

第6学年 体育科学習指導案

1組 計30人 (男子14人, 女子16人)

指導者 吉田 泰斗

1 単元 バンと勢いよく跳び越そう！かかえ込み跳び（跳び箱運動）

2 単元の目標

「発見したコツを生かしてかかえ込み跳びができるようになりたい。」「自分の課題に合った場で動きを高め、バンと勢いよく跳び越したい。」といった願いをもち、動きを高めるコツを発見し自分の課題に合った練習の場や段階、運動の楽しみ方を選ぶことができる。そして、友達と助け合いながら練習に進んで取り組む中で、かかえ込み跳びを身に付けることができる。

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
場や器械・器具の安全に気を配り、約束を守り友達と助け合いながら取り組もうとしている。	課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や段階を選んでいる。	助走から両足で踏み切っ て着手し、脚を抱え込んで跳 び越しをすること。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちはこれまでに「5年：クルッと大きく回ろう！台上前転」の学習を通して、台上前転というコツを発見し、自分の課題を把握することで台上前転を安定して行ったり、その発展技である首はね跳びなどに挑戦したりする楽しさを味わってきている。また、友達の動きや掲示資料などから台上前転のコツを発見し、跳び箱の置き方や高さを工夫したり、自分の力に合った技に挑戦したりする楽しみ方も味わってきている。そして、「新しい技に挑戦したい。」「練習の方法や場を選んで上手にできるようになりたい。」「友達と助け合って跳び箱運動をもっと楽しみたい。」などの欲求をもっている。

そこで本単元では、かかえ込み跳びを身に付けることができるように、コツを発見し自分の課題を把握したり、自分の課題に合った場で友達と助け合いながら練習に取り組んだりしながら学習を進めていく。そして、「高く」、「遠く」などの視点で、自分の力に合った楽しみ方を選択しながら運動に取り組むことや今まで学習してきた技に再度取り組み、お互いの動きを教え合うことを通して、跳び箱運動のもつ楽しさや喜びを味わっていく。

この学習は、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うとともに、条件を変えた技や発展技を行う「中学校1・2年：跳び箱運動」の学習へと生かされていく。

(2) 単元における系統 (◎は学習内容の重点)

単元名	5年「クルッと大きく回ろう！台上前転」				6年「バンと勢いよく跳び越そう！かかえ込み跳び」			
	1	2～4	5・6	7	1	2・3	4～6	7
学習内容	学習の約束 単元のめあて	◎コツの発見 ◎課題の把握	○課題の解決の仕方 ○練習の場の選択	発表会	学習の約束 単元のめあて	○コツの発見 ○課題の把握	◎課題の解決の仕方 ◎練習の場を選ぶ	発表会

(3) 運動の特性について

跳び箱運動は、基本的な支持跳び越し技ができるようになったり、より高い跳び箱やその発展技に挑戦したりしたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、跳び箱の高さや向きを変えるなど、より困難な条件の下でできるようになったり、より大きく美しい動きができるようになったりしたときに、更なる楽しさや喜びを味わうことができる運動でもある。

かかえ込み跳びは、開脚跳びなどの切り返し系の技を経験してきた子どもたちにとって身に付けやすい技である。また、跳び箱を腕で上から「バン」と強く突き放し、素早く脚を抱え込みながら勢いよく跳び箱を跳び越えたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(4) 子どもの実態（調査日 平成 26 年 9 月 8 日，調査人数 30 人）

項 目	回 答（数字は人数）		
1 飛び箱運動への興味・関心 ◇ 理 由 （複数回答）	・好き(16) ・どちらかといえば好き(7) ・どちらかといえば嫌い(4) ・嫌い(3) ○できたときうれしい(24) ○いろいろな技に挑戦できる(4) ○得意(3) ●怖い(9) ●できない(4) ●コツが分からない(2) ●苦手(1)		
2 単元のめあて	・アドバイスし合う(18) ・高い段を跳ぶ(4)	・大きく美しく跳ぶ(17) ・様々な技に挑戦する(2)	・コツを見つける(5) ・場の工夫をする(2)
3 かかえ込み跳び のコツ（複数回答）	・脚を素早く抱え込む(15) ・脚をすぐには曲げない(2) ・分からない(2)	・強く踏み切る(5) ・手を遠くに着く(2)	・助走を速くし過ぎない(3) ・手を後ろに振る(2)
4 楽しみ方の工夫 （複数回答）	・いろいろな技を工夫する(15) ・友達と競争する(8) ・段数を増やす(7) ・力に合った場で練習する(1)		
5 かかえ込み跳び の技能の実態	◎	飛び箱をバンと勢いよく突き放して跳び越す(2次局面の大きさ)	0
	○	跳び越えることができるが着地が不安定	4
	△	腕で自分の体を支持する感覚に課題(かえるの足打ち)	4
	△	腕を支点にした体重移動に課題(連結跳び箱の腕支持渡り下り)	4
	△	体の投げ出し感覚に課題(スーパーマン跳び)	11

興味・関心については、好きと答えている子どもが多いが、「怖い」などの理由で嫌いと答えている子どももいる。そこで、飛び箱を跳ぶための基礎感覚を身に付ける時間を設定する。また、恐怖感を和らげるために、セーフティーマットを活用した場なども設定する。

単元のめあてについては、「アドバイスし合いたい。」「大きく美しく跳びたい。」などの願いをもっている。そこで、お互いの動きを見合いながらコツを発見し、それを生かして課題に合った場で練習に取り組み、かかえ込み跳びの動きを高める学習を展開していくようにする。

かかえ込み跳びのコツについては、ほとんどの子どもが「脚を素早く抱え込むこと」と考えているが、コツが「分からない。」と答えている子どもも見られる。そこで、コツを見付けることができるように掲示資料やICT機器を準備する。

楽しみ方については、「いろいろな技で遠くまで跳び越そう」などの工夫を挙げている。そこで、マットの着地点にテープを付けたり、掲示資料を活用したりすることで、子どもが楽しみながら考えて動きを高めていくことができるようにする。

かかえ込み跳びの技能の実態については、体の投げ出し感覚に課題がある子どもが多い。そこで、タブレットPCや映像遅延装置を活用することで自分の動きの課題を把握し、その解決に向けた練習方法や場を選んで感覚づくりや技に取り組むことができるようにする。

5 指導に当たって（研究との関連）

「つかむ」過程においては、目指すかかえ込み跳びの動きを動画で確認することで、バンと勢いよく跳び越すかかえ込み跳びの動きについてのイメージを共有できるようにする。また、「課題に合った場を選んでかかえ込み跳びに挑戦し、『6の1跳び箱オリンピック』を開こう。」という単元を貫く学習問題を設定することで、意欲的に学ぶことができるようにする。

「挑戦するⅠ」過程においては、タブレットPCや映像遅延装置を活用し、目指す動きと実際の自分の動きを比べることで、自分の課題を的確に把握できるようにする。また、それぞれの課題と練習方法や場を関連付けて提示することで、「ぼくの課題は、突き放しが弱いところだ。だから、連結跳び箱の場で練習しよう。」など、どの子どもも「自分事の問い」をもって動きを高めることができるようにする。さらに、子どもの課題に合った段階的な場を設定することで、子どもが自分の練習方法や場を選び直すなど、常に「自分事の問い」をもちながら動きを高めることができるようにする。

「挑戦するⅡ」過程においては、友達との競争や発展技への挑戦といった楽しみ方を紹介することで、「自分事の問い」を連続・発展させながら楽しく取り組むことができるようにする。

「確かめる」過程においては、単元の中で特に動きを高めた子どもを紹介することで、自分の課題を把握し、その課題に合った方法や場を選んで練習することのよさを実感できるようにする。

6 指導計画 (全7時間) ※ 「自分事の問い」をもたせる場面及びその内容はゴシックで表記

時間	1	2	3	4 (本時)	5	6	7
過程	つかむ	挑戦するⅠ			挑戦するⅡ		確かめる
単元を貫く学習問題	課題に合った場を選んで、かかえ込み跳びに挑戦し、「6の1跳び箱オリンピック」を開こう。						
学習問題	大きな開脚跳びとかかえ込み跳びに挑戦して単元のめあてをたてよう。	大きな開脚跳びのコツは何だろうか。	かかえ込み跳びのコツは何だろうか。	かかえ込み跳びができるようになるにはどのような場で練習するとよいのだろうか。	できるようになったかかえ込み跳びを楽しもう。	これまでに学習してきた技を選んで跳び箱運動を楽しもう。	「6の1跳び箱オリンピック」を開こう。
主な学習活動	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 大きな開脚跳びとかかえ込み跳びとの出会い 4 試しの大きな開脚跳びとかかえ込み跳び 5 整理運動 6 振り返り 7 単元のめあて	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 発見タイム 4 確かめタイム 5 チャレンジタイム 6 整理運動 7 振り返り	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 発見タイム 4 確かめタイム 5 チャレンジタイム 6 整理運動 7 振り返り	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 チャレンジタイムⅠ 4 確かめタイム 5 チャレンジタイムⅡ 6 整理運動 7 振り返り	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 楽しみタイムⅠ 4 確かめタイム 5 楽しみタイムⅡ 6 整理運動 7 振り返り	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 楽しみタイムⅠ 4 確かめタイム 5 楽しみタイムⅡ 6 整理運動 7 振り返り	1 めあての確認 2 のびのびタイム 3 楽しみタイム 4 6の1オリンピック 5 整理運動 6 単元の振り返り
	【のびのびタイム：かかえ込み跳びに関連した基礎感覚を身に付ける運動遊びを経験する時間】 ○手足走り ○かえるの足打ち ○馬跳び ○うさぎ跳び ○跳び上がり下り ○開脚跳び ○台上前転 など						
	【発見させたいかかえ込み跳びのコツ】  ① 強く踏み切り、手を奥に着く。 ② 素早く両脚を胸に抱え込む。 ③ 強く突き放し、顔を上げる。	【課題に合った練習の場】 ○「踏み切り」が課題 ・ステージの上への跳び上がり ○「両脚の抱え込み」が課題 ・うさぎ跳び ・跳び箱への跳び上がり下り ○「突き放し」が課題 ・馬跳び、連結跳び箱の場 			【楽しみ方の選択】 ○跳び箱の高さや向きなどを変える。 ○踏み切りの位置を変える。 ○遠くへ着地する。(第2空中局面の大きさ) ○既習内容を選択する。 (開脚跳び、台上前転、大きな台上前転) ○発展技へ挑戦する。 (首はね跳び、頭はね跳び)		
「自分事の問い」	課題に合った場で、かかえ込み跳びができるようになりたい。6の1オリンピックで上手に跳ぶぞ。	強く突き放すことができていないことが分かったぞ。連結跳び箱の場で強く突き放す練習をしよう。	跳び箱の奥に手が着けていない。ステージの上への跳び上がりの場で踏み切りを強くしよう。	課題は突き放しが弱いことだ。連結跳び箱の場で練習して跳べるようになりたい。	友達と遠くまで跳び越す競争をすると楽しかった。次は跳び箱の向きを変えて楽しむぞ。	久しぶりに大きな台上前転をやってみたぞ。次は、頭はね跳びに挑戦してみよう。発表会が楽しみだ。	かかえ込み跳びなどが跳ぶことができて、うれしかった。中学校でも課題に合った場で練習して楽しみたい。
重点評価項目	試しの技に挑戦し、「かかえ込み跳びができるようになりたい」という願いをもっている。(態)	自分の課題に合った練習の場を選んでいる。(思・判)	かかえ込み跳びのコツを見付け、自分の課題を把握している。(思・判)	自分の課題を把握し、その課題に合った場を選んでいる。(思・判)	助走から両足で踏み切って着手し、脚を抱え込んで跳び越えることができる。(技)	自分の課題に合った練習の場や段階を選んでいる。(思・判)	学習してきたことを生かしてかかえ込み跳びを中心とした技に進んで取り組んでいる。(態)
評価法	○体育ノート○観察○発言	○体育ノート ○観察 ○発言 ○ICT					○体育ノート○観察○発言

7 本時 (4/7時)

(1) 目標

「跳び箱を強く突き放す」など、自分の課題を把握し、その課題に合った練習の場を選ぶことができる。【思考・判断】

(2) 展開 □ は教師の言葉掛け □ は予想される子どもの問い □ は「自分事の問い」 □ は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

避(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (9)	<p>1 めあての確認</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">前の時間はどんな学習をしましたか。今日はどんな学習をしますか。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">かかえ込み跳びの踏み切りや着手などのコツを見付けました。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自分の課題を把握することができました。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">課題に合った場を選んで練習をして、かかえ込み跳びができるようになりたいです。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">かかえ込み跳びができるようになるには、どのような場で練習をするとよいのだろうか。</p>	<p>○ 子どもの動きの実態や意識を前時の活動や体育ノートから把握しておくことで、本時の場づくりに生かすことができるようにする。</p> <p>○ のびのびタイムでは、「うさぎ跳び」などを行うことで、かかえ込み跳びに関連した基礎感覚を身に付けることができるようにする。</p> <p>○ 「ステージへの跳び上がりの場」、「跳び上がり下りの場」、「連結跳び箱の場」などを設定し、どの子どもも自分の課題に合った場で練習できるようにする。</p> <p>○ チャレンジタイムⅠでは、課題と練習の場が関連した資料を提示することで、それぞれの課題に合った練習の場を選ぶことができるようにする。</p> <p>☆ 確かめタイムでは、タブレットPCや映像遅延装置などのICTを活用し、自分のイメージと実際の動きを比べることで、自分の課題を把握することができるようにする。</p>
	挑 戦 す (31)	
確 か め る (5)	<p>6 整理運動 課題だった突き放しを、連結跳び箱の場で</p> <p>7 振り返り 練習すると跳べるようになりました。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今日初めて跳べました。次は跳び箱の高さや向きを変えて挑戦していきたいです。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分の課題に合った場を選んで、かかえ込み跳びの練習をすることでできるようになる。</p>	<p>○ チャレンジタイムⅡでは、「胸に脚がついているか見えていてね。」など動きを見る視点を明確にすることで、子ども同士の「学び合い」が充実することができるようにする。</p> <p style="border: 2px dashed black; padding: 5px;">◆ 課題を把握し、課題に合った場で練習している。 【思考・判断：体育ノート・発言・観察・ICT】</p> <p>○ 動きが高まった子どもを紹介することで、自分の課題を把握し、その課題に合った場を選んで練習することのよさを実感できるようにする。</p> <p>○ 本時の学習を振り返り自己評価を行うことで、新たな問いを明確にもつことができるようにする。</p>